

第7回 インフラツーリズム 有識者懇談会

令和3年3月23日

【清水座長】 議事に入りたいと思います。今日は各モデル地区の進捗状況の確認と今後の進め方について議論していきたいと思います。最初に前回までの議論の内容につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 それでは資料 1-1 の 1.前回までの議論の概要についてご説明いたします。

まず資料 3 ページ目をご覧ください。懇談会の開催経緯がございます。前回、昨年 8 月の第 6 回懇談会では、今年度の各モデル地区の進捗状況をご報告させていただくとともに、モデル地区を2か所追加させていただきました。本日の懇談会では今年度の成果をご報告させていただきます。

次に、4 ページはモデル地区の概要でございます。今全部で 7 か所となっております。右側の 6 番、7 番、白鳥大橋と日下川新規放水路が今年度追加選定した場所でございます。

5 ページ目でございます。こちらはモデル地区での取り組み内容でございます。前回の懇談会で提示しておりますが、検討③運営体制の構築を軸に①施設の深度化、②の地域資源と連携したコンテンツの検討を加えながら、④インフラツーリズムを実践していくということにしております。

6 ページ目でございます。こちらは前回の懇談会でインフラツーリズムのタイプ分けについてご説明いたしました。インフラの種類、地域の戦略等により、目指すべき姿が異なることから、一括りにするのではなく、目指すべき姿を明らかにしてタイプ分けを行って評価を行うことといたしました。こちらについては次でご説明させていただきます。

7 ページ目は、前回の懇談会での意見に対しての進め方です。まずモデル地区での取り組みにつきまして、1 番、「地域主体で儲かる仕組みを作らないと続かない」というご意見に対しましては、現地協議会主体で進める体制を構築していきます。2 番、「各地域で同じように進めるのではなく、現地の体制等を踏まえて進め方を判断する」に対しましては、インフラの特性や地域の進捗に合わせて進め方を検討しております。3 つ目、「主体的に進める組織と人が重要である」に対しましては、持続可能な運営体制を構築していきます。4 つ目、「手引きの内容に

については今から整備した方が良い」ということに対しては、手引きを来年度更新する予定でございますが、こちらについてはですね、追って後からご説明いたします。5 項目、「この事業以外でも地域で独自の取り組みがあっても良い」につきましては、地域においてもですね、社会実験以外でもですね、地域活性化の取り組みを進めているというところでございます。

次に 8 ページ目でございます。上段にインフラツーリズムの今後の留意点がございまして、6 番、「無理に推し進めるのではなく、地域主体の取り組みを支援していくべき」につきましては、有識者のサポートをいただきながら、地域が主体的に進める体制を構築していきます。7 番目と 8 番目でございます。「収益化の方向性だけでなくタイプに応じて進め方を考える必要がある」につきましては、インフラのタイプに応じて方向性を検討いたします。次にご説明いたします。

下段のモデルの追加選定、9 番、10 番につきましては、「モデル地区は狙いを明確にする必要がある」につきまして、狙い、ターゲット等を明確にして進めることとしております。一番下 11 番でございますが、「モデル地区以外も支援すべき」というご意見に対しまして、モデル地区以外でも地域の要望に応じて支援することとしておりまして、この旨を地方整備局に会議などで伝えているという状況でございます。

続きまして 9 ページ目でございます。こちらにつきましてはコロナ対策でございます。ガイドライン等に順守して進めることとしてございます。

こちら 10 ページ目は現在実施している有料ツアーの一覧表でございます。

11 ページ目でございます。こちらは事業全体のスケジュールです。各地域ではですね、自走に向けて社会実験を進めているところでございます。来年度ですね、手引きを更新予定でございます。なおですね、事業年度と検討内容は固定しているものではございません。コロナ禍の状況ではありますが、自走に向けてですね、少しでも前倒しで進めていきたいという風に考えております。

以上でございます。

【清水座長】 ありがとうございます。それでは今のご説明につきまして、確認等も含めてご質問、ご意見等をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。Web 参加の河野委員と篠原委員、いかがですか。

【篠原委員】 特段ございません。よろしく申し上げます。

【河野委員】 ここまではありません。

【清水座長】 それでは網羅されているということで次に進めたいと思います。

それでは次、2番ですね、取組のタイプに応じたインフラツーリズムの拡大方策ということで、事務局より説明をお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 それでは2番、取組のタイプに応じたインフラツーリズム拡大方策につきましてご説明させていただきます。

13 ページをご覧ください。実施目的でございますが、インフラツーリズムを推進するにあたりまして、目的や運営条件等により分類し、目指すべき方向性を定める指標として活用することとしております。

インフラツーリズムの取組を目的や運営条件等によって4つに分類いたしました。下の図にございますが、有料と無料、あと目的や手法の違いで収益型と普及啓発型、一般開放型の3つに分類しております。

収益型につきましては、さらに施設単独で観光コンテンツを成立させる単独モデルと、周辺観光資源等と連携する地域連携モデルに細別してございます。これら分類から選択、または組み合わせる目指すべき方向性を検討していくということにしております。

14 ページでございます。こちらからですね、分類の概要でございます。

14 ページは有料ー収益型の単独モデルでございます。上段が事例と状況でございます。こちらについてはですね、コンテンツを収益事業として民間事業者へ委託し、独自で収益を生み出しているという状況でございます。

下段の方ですけれども、施設管理者は収益事業として管理する組織を委託して運営を行っていただき、安全確保に必要な装備や人員の確保を実施いたします。

運営主体でございますけれども、ターゲットに応じたガイドプログラムの整備、収支管理や予約管理を実施するという形でございます。

続きまして15 ページ、こちらは有料ー収益型の地域連携モデルでございます。旅行会社がインフラ施設を観光資源の一つとしまして、周辺地域と合わせたツアーを販売するというところでございます。

施設管理者は収益事業として外部組織と連携して、インフラと地域観光資源を組み合わせる商品造成を行っていただくことと、安全確保に必要な装備や人員の確保を実施いたします。

運営主体はインフラと地域資源を連携したストーリーを落とし込んだ商品の造成と、収益管理や予約管理するフローの構築等を行っていくことにしております。

16 ページ、こちらは無料ー普及啓発型です。資料館の設置や、団体見学の無料案内をしておりますが、収益を目的としておりません。

施設管理者はガイドや資料館の人員の確保、運営管理、安全管理を実施することにしてございます。

17ページでございます。こちらは一般開放型でございます。いつでも見学できるように無料で開放しておりまして、駐車場や案内板が整備されているという状況でございます。

施設管理者は無料開放のための管理人員や安全確保に必要な整備を実施しています。

以上が四つの分類の概要でございます。

続いて 18 ページ目でございます。これはそれぞれの分類の事例でございます。明石海峡大橋は単独型に分類できるという考えでございます。普及啓発型の小平ふれあい館はですね、無料で下水道の中に入ることができる日本で唯一の施設ということで、運営してございます。

19 ページでございます。こちらはですね、モデル地区の現状を分類したものでございます。モデル地区は無料の分類が多い方でございますけれども、例えば普及啓発の施設でも有料の地域連携モデルに分類している地区もございます。これは今までに、例えばイベント的に単発で有料ツアー等を実施している箇所を地域連携モデルに入れてございます。

現在モデル地区におきましては自走に向けて、収益を目的としたツアーをイベントなどのいわゆる単発ではなく、いわゆる常設で、年間を通して実施できないか、持続可能性を検討していただいております。

今年度モニターツアーを実施した箇所、コロナ禍において実施できず来年度実施する箇所もございまして、これらの分類を踏まえて、地域で実現可能なモデルを検討していただきたいというふうに考えております。

20 ページでございます。こちらはですね、設定した分類型に対しまして、旅行者の受容性をWEB 調査により実施する予定でございます。インフラの観光資源の可能性やターゲットとしての受容性を調査する予定でございます。有料、無料のツアーの概要や例を提示しまして、認知度や参加の意向、魅力向上のための要素などの調査を実施する予定でございます。

以上でございます。

【清水座長】 ありがとうございます。ただ今のご説明についてご質問、ご意見等がございましたらよろしくお願いをいたします。

【篠原委員】 篠原ですがよろしいでしょうか。

今、19ページのご案内がございましたが、ちょっと仕分けの分類の仕方が分からないので教えていただきたいのですが、右側に出ております普及啓発型、一般開放型というところにずらずらと並んでおりますが、今実際のところ動き出しているのは白鳥大橋とか鶴田ダム、私担当

のものがですね、こうしたところも有料化に向けまして具体的にもう目鼻が立ってきておるわけですが、こうした分類はどのような分類で事務局では分類されているのかお聞かせいただきたいのですが。

【観光・地域づくり事業調整官】 事務局でございます。今こちらに分類しているのは、今までの現状を記載したものでございます。篠原委員がおっしゃった、例えば鶴田ダムは普及啓発型としては通常ですね、現場見学会の受け入れをしたり、一般開放型としては天端通路資料館等を開放しているということで無料の方に入れてございます。

それもですね、つまり左側の収益型、単独モデル、地域連携モデルに向けてですね、今検討しているということで、これは現状を記載したものでございます。

【篠原委員】 理解できました。ありがとうございます。

【清水座長】 はい、他いかがでしょうか。

【阿部委員】 見せ方の問題かと思いますが、分類の方法はいろいろあるかと思いますが、今回、有料と無料でスパッと分けてしまわれていて、有料対無料のような、まずどちらか選択をしないといけないように見えなくもないので、先ほどの篠原委員のご発言にもありましたが、無料と有料の間を行き来するようなことも想定されると思いますので、見せ方として有料対無料のような、まずどちらかを選択してそこから入っていくというような形ではない方が良いと思いました。

【観光・地域づくり事業調整官】 ありがとうございます。先生がおっしゃるように、もちろん有料、無料いろいろなパターンがございますので、確かに有料と無料をこれはスパッと分けたような形になっているのですが、地域のやり方によっては様々な組み合わせがあると思いますので、地域の実情に応じてですね、これを参考にしながらどのような方向性に向かっていくかということを検討していただきたいという風に考えております。

【阿部委員】 そうですね、最初に有料にしようか無料にしようかで分けて考え始めるのではなくて、どのような取り組みにしようかというところから考え始めて、その先で有料か無料かの検討になろうかと思いますが、見せ方かとは思いますがよろしくお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 承知しました。

【清水座長】 他はいかがですか。河野委員お願いします。

【河野委員】 よろしいですか。今の議論について、13 ページの書きぶりだと思うのですが、文章のところで「インフラ施設はこれら分類から選択または組み合わせで目指すべき方向性を検討」というふうに一応補足があるので、こちらを作った側の人間としてはどれか一つのインフラが当てはまるわけではないし、無料から有料に進んでいくことが方向性として望まし

いわけではないという思いがあるものの、初めてこの資料を見た人にとっては、どれか1個を選ばなければいけないのかとか、こっちからこっちに進んでいくことが求められているのかとか、そういうふうに誤解をする可能性があるので、具体的などこかの施設や地区を取り上げて示すというよりは、例えば汎用的な1つの全く存在しない例として、スポットでイベントとしてコンサートをやっています、これは年間1回やってこれは有料で開催している、というような取り組みの例を挙げ、一方で同じ施設で通常時には施設一般開放もしていて、あるいは小学生とか特定の団体に対しては少額だけどお金も取ってちゃんとしっかりしたプログラムを提供しているよ、というようなありそうな火葬プランを提示し、1つのインフラ施設でこういう風な組み合わせをして実証していくことによって、全部無料というわけではないし、収益も見据えながら可能だったらそれを広げていけばよい、というような取り組みのイメージが湧くようなポンチ絵とかイメージ図みたいなものが1枚入ってくると、今のような解釈の違いとか質問とかが出なくなるのではないのかなと思います。

【篠原委員】 篠原でございます。今の関連なので一緒にお話してよろしいですか。

【清水座長】 はい、どうぞ。

【篠原委員】 今これ13ページに表示されておりますが、全国でダムですとか河川を使ったイベント型の企画というのがもう山ほど今あるのだと思います。今回このインフラツーリズムの魅力増強プロジェクトというのは、以前当初の計画書にありましたように、進化をしているのだと。今までは見学会だったものが、それが地域の資源とちゃんとつなぎ合わせて地域振興モデル、この有料のところの右側でございますこのモデルですよ、これに進化させていこうというのが事業の大きな立て付けだったということを確認しなくてはならないのだと思います。

ハッ場ダムのお話もそうですし、それから今回いろいろ進んでいるエリアがございますけれども、我々の目指すところというのは、付加価値をインフラ自体につけながら、他の観光資源、現地の方でいろいろ取り組んでいる課題をですね、上手くセットしながらモデル化していくという、目指すべき方向というものはここにあるように思うんですね。そのためには、やはりしっかりと付加価値をつけて有料化してですね、国土交通省の職員の方が週末は勤務ができないような状況をですね、通年型としてこうやれると。こういうのが理想的なモデルだと、こういう確認をしていると思いますので、ちょっとそこら辺のストーリーは事務局の方でしっかりと整理をされなければいけないかと思うわけでございます。以上です。

【観光・地域づくり事業調整官】 ありがとうございます。

河野委員から話がありました、誤解されないようにということでポンチ絵、イメージ図という

ところはですね、次回資料を提出する際は検討したいと思っております。

また、篠原委員から話がありました、付加価値を付けて、地域振興モデルに向けて進めてきているという方向はまさしく仰る通りでございますので、その辺を踏まえて地域でいろいろ検討していきたいという風に思っております。

【公共事業企画調整課長】 篠原先生のおっしゃられる通りで、ちょっと目的のところの一つ書き忘れていたような気がするのですけれども、なぜ収益が目的かという、多分、公務員だとかボランティアの対応範囲を超えて付加価値をさらに高めたいといったときの手段が有料という手段で、これが有料か無料かが目的化しているような気がするのですけれども、本当はその上にもう一段高い目的があって、多分有料か無料かは手段の選択だと思えば良いのかなという整理かなと思うのですけれども、これは多分篠原先生がおっしゃりたかったことかなと思うんです。

そういう風に考えると、有料、無料というよりも、もう 1 つ高い目標をどこかに書いておいた方が、何となくこの目標はすんなりと、何て言うのかな、お金がぎらつかないような形で良いのではないかなと思いましたので、そこはまだそんな感じで変えるような方向かなと思っております。

【篠原委員】 佐藤課長、その通りでございます。端的にありがとうございます。

【清水座長】 ありがとうございます。私も同種の感触を持っておりますし、あとは倍増のような数を目指すという政策目標に対しては、この右側ですね、このグループが結構充実しないと多分達成しないということなので、まあ両にらみですかね。付加価値を高めて、地域も潤う形で一定のビジネスにしていくという方向性を追求しつつ、やはり倍増プログラムなので、数としては右側、将来は左側に移る可能性があるというものをたくさん入れる、無料だけれども人がたくさん来ていただけるというものも上手く組み合わせていくのだろうなと感じますし、単独のインフラのところでも上手く使い分けて、右側のグループから左側のグループに一部の来ていただいた方を誘導するとか。全体として、ここでの地域連携の左側への誘導と、インフラ単体での左側への誘導を上手く組み合わせることが大事だと、今の議論を聞いていて思いました。

あと別の観点でいかがですか。では、こちらの方は少し今のご意見を踏まえて、表現等を含めて修正を頂ければと思います。

では、時間がありますので次の議題に行きたいと思っております。続きまして各モデル地区の進捗状況ですね、それから令和 2 年度の成果と今後の実施方針、これらは関連がありますので、続けて一括で事務局よりご説明をお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい、事務局でございます。各モデル地区のまず進捗状

況についてご説明いたします。

22 ページをご覧ください。こちらはですね、前回の懇談会でも提示したものでございますけれども、事業フローでございます。こちら1年目の事業フローで、現地協議会を設置、開催いたしましてファムツアーを実施して、ツアーでの調査結果を踏まえて運営に対しての検討や課題の整理を実施したところでございます。

次の23ページ目、こちらはですね、事業フロー2年目でございます。協議会でストーリーやツアーの検討を行いまして、プロモーションを実施し、自走化に向けてですね、モニターツアーを可能なところは実施したところでございます。

続きまして24ページ目は各地域の実施状況でございます。黒丸がでございます。こちらはですね、協議会やツアーを実施しておりまして、その他にですね、赤い星印がございまして、地域がかなり密に細かく現地検討会で活用方法や役割等の検討を重ねてきたところでございます。今年度はですね、コロナ禍の影響でツアーを実施できなかった箇所がございまして、こちらにつきましては後からスケジュールを提示いたしますが、来年度実施することとしております。

なおですね、鳴子と鶴田ではツアーを実施しております。来島海峡大橋では本四高速様においてですね、追って説明いたしますが、検証ツアーを実施したという状況でございます。こちらは全体の今年度のスケジュールでございます。

続きまして個別の箇所の説明でございます。25ページ目からですね、鳴子ダムの今年度の実施内容でございます。

下段でございますけれども、令和2年度の事業概要としましては、自走に向けた運営体制の検討を実施しておりまして、ガイドは地元から調整したところでございます。テーマは上流から下流までの水としまして、ガイドストーリーの検討を行い、すだれ放流以外の実施内容を検討してきたところでございます。

次26ページ目でございます。こちらは運営スキームでございます。中段に民間運営事業者と書いてございますけれども、こちらにつきましては、みやぎ大崎観光公社、こちらでですね、主体となって実施することで地域の合意を得て検討を進めているというような状況でございます。

27ページは実施したツアーの内容でございます。鳴子ダムにおきましては下の表にございますけれども、1日1組限定、高単価、高付加価値プランということで、コンセプトとしましては鳴子温泉の旅行客を対象としまして少人数に限定した高単価のツアーを実施いたしました。

ポイントとしましては、紅葉時期は混雑しますが、パトロール船からですね、湖面から紅葉見学等を実施したところでございます。あとインクラインへの乗車等も行いまして、あと周辺観光

地としましては、ダムの上流にございます遊歩道を体験したということで、韓国の方も参加したところでございます。

下段の団体バスツアーでございますが、こちらは首都圏や仙台を対象として実施したところでございます。こちらはですね、試験放流の見学やインクラインの乗車、あとは地獄谷遊歩道のほか、道の駅を周遊したところでございます。

28 ページはですね、高単価プランの内容でございます。中段に販売価格がございまして、タクシーで移動してございまして、3名で1台の場合、1人約23,000円の価格で販売いたしました。紅葉時期はかなり混雑しますけれども、タクシーで移動しまして、ダムから紅葉をご覧いただいたところでございます。

なおですね、団体のツアーは3,250円で販売したところでございます。

こちら29ページ目は実施の状況でございます。左側が観光、高付加価値プランということでパトロール船から紅葉の鑑賞やインクラインへの乗車、また右側がですね、団体バスツアーの写真の状況でございます。試験放流をご確認いただいたという状況でございます。

30ページ目でございます。こちらは実施結果、検証結果でございます。検証項目は、ターゲット、担い手、商品造成、プロモーション、収支計画、評価ということで検証してございます。ターゲットの多くは仙台在住ということでございました。

プロモーションは観光公社のホームページやフリーペーパーを使用しまして、割と団体のバスツアーにつきましては早々に販売を完了したという状況でございました。

評価についても、良い結果が得られたという風に考えてございます。

31ページは鳴子ダムにおきましてガイドラインを作成してございます。お手元に全体版を配布してございますけれども、左側にありますガイドマニュアルの構成としましては、一般論としまして心構え、基礎技術編ということと、あと2つ目として鳴子ダムのガイド実践編ということで2つの構成としてございます。一般論につきましては他の地区への活用も可能と考えております。

32ページでございます。こちらはですね、今年度の実施結果を踏まえた来年度の事業概要でございます。下段にございますけれども、紅葉時期以外のツアーの内容の検討、通年を通してツアーを実施できるかどうかということを検討することとしてございます。

あとですね、世界農業遺産の大崎耕土を含めたストーリーの検討、ボートを運営する場合の民間委託等の経費も含めて収支計画について検討する事としてございます。

33ページ目でございますが、これも鳴子ダムで実施する予定のツアーでございます。下にございますけれども、個人向けとして高単価のプランを実施することで現在考えております。こち

らにつきましては今年度と同様に鳴子温泉宿泊客をターゲットとしまして、鳴子ダムを組み合わせたプランを来年度、年間を通して実施していきたいと考えてございます。

下段の団体向け旅行商品、こちらはですね、バスツアーでございますけれども、遂行できない場合は費用のリスクがあることから、こちらは旅行会社向けの商品として販売を行うこととしてございます。鳴子ダムは以上でございます。

続きまして 34 ページ、天ヶ瀬ダムでございます。今年度はですね、企画、予約販売、実施等の運営体制の検討と周辺観光資源と連携したガイドストーリー、個人向けの商品の造成を検討してまいりました。

35 ページは運営スキームでございますが、天ヶ瀬ダムについては宇治市観光協会が主体となって実施することとしてございます。

36 ページ目は検証項目でございます。造成、実施、実施後の段階でそれぞれ検証事項を立てております。プロモーションの実施、オペレーション、アンケートや価格設定を検証するモニターツアーを実施しまして、体制や活動方法を検討することにしてございます。

37 ページ目でございますが、こちらはですね、天ヶ瀬ダムで今後実施予定のツアーでございます。左側が宇治市、京都府在住者を対象とした、今まで地元にながら行く機会がなかった名所を回るというようなツアーと、右側が京都府以外、あと近畿圏内を対象とした 2 つのプランを実施する予定でございます。右側については、初めて宇治市を体験するというようなプランを考えてございます。これはですね、地域からの提案でこのツアーを実施したいという意向のもとに実施する予定でございます。

続きまして 38 ページ目でございます。こちらは雨天時でございます。ダムのキャットウォークにつきましては雨天時見学ができないため、代替案の検討が課題となっているという状況でございます。

39 ページ目は来年度の実施内容でございます。下段にございますけれども、ダムとの組み合わせや雨天時のコンテンツ、あとは琵琶湖からの流域全体のストーリー、自走可能な運営体制の検討を実施する予定でございます。

40 ページ目でございますけれども、実施方針ということで実施スケジュールでございます。夏頃まで検討を行いまして、夏頃に募集開始、あとモニターツアーを実施する予定ということで考えております。以上が天ヶ瀬ダムでございます。

41 ページ目からは来島海峡大橋でございます。今年度は、特に運営体制としてガイドや安全管理の検討を行いまして、運営委託の検討を実施してまいりました。

42 ページが運営スキームでございます。来島海峡大橋では、民間事業者に運営委託を実施するスキームとして体制検討を進めているような状況でございます。

43 ページ目でございます。こちらはですね、本四高速様で今年度、安全面、運営面、コスト面での課題を抽出するために4種類の検証ツアーを実施いたしました。これはですね、1つのものですが、サイクリングと塔頂ツアー、桁外面作業車を組み合わせたツアーを実施したものでございまして、この他に3種類のツアーを実施したところでございます。

44 ページ目でございますが、こちらは本四高速様の方でマーケットサウンディングを実施したところでございます。表にもございますけども10社が参加しまして、当地域にツアーは事業性があるという回答が多く得られたというところでございます。下段ですけども事業者の関心度も高いというような結果を得ているというような状況でございます。

45 ページ目でございます。こちらは実施スケジュールでございます。今年度から来年度にかけての予定でございますが、ガイド研修等を実施いたしまして、ガイドマニュアルの作成、あとエレベーターの安全対策を実施しながら、今年度マーケットサウンディングをした調査結果を踏まえながら、来年度モデル事業の事業者を公募いたしまして選定の上、秋頃にツアーを実施する予定でございます。

46 ページ目は来年度の実施内容でございます。下段になりますけども、安全面を考慮しまして人員配置を行いながら収支計画の検討、民間事業者による運営体制の構築に向けて公募、選定を行っていきたいというふうに考えております。

47 ページは今後の実施方針でございます。ツアーを踏まえまして、安全性の確保された満足度の高いコンテンツや連携方策を精査していくという方針でございます。以上が来島海峡大橋でございます。

続きまして48 ページ目からは鶴田ダムでございます。下段、今年度の事業内容でございますけども、今年度は特に運営体制の検討、あとは事務所に勤務しますコンシェルジュのガイドとしての活用、あとは土日対応の検討を実施してきたところでございます。

49 ページ目は運営スキームでございます。中段にございますけども、薩摩川内市観光物産協会が主体となって実施することということで合意を得ているところでございます。

続きまして50 ページ目でございます。こちらはですね、11月に実施したツアーでございます。写真の右側上段にありますけども、この点検放流とあわせまして周辺の観光資源と連携したツアーを実施したところでございます。価格が記載してございますけども、一人当たり35,800円でしたが、貴重な体験だったと好評を得ているような状況でございます。

続きましてモニターツアーの実施結果でございます。上段ですけれども、ツアーに興味を持った理由としましては、ちょっと細かくて恐縮ですけれども、上から 2 番目の「ダム放流が見たいから」ということと、下から 3 番目の 11 番ですが、「普段の生活では行かないところに行ってみよう」というようなことが興味を持った理由として回答を得てございます。

下段ですけれども、やはり鶴田ダムの治水がでございます。鶴田ダムの役割、目的につきましては多くの方から「目的は理解できた」というようなアンケート結果を得ているところでございます。

52 ページ目からはツアーの一覧でございます。52 から 53、54、55 までツアーを記載してございます。こちらはですね、52 ページ、53 ページが団体向けツアー、54、55 ページが個人向けツアーということで団体向けに 6 種類、個人向けに 5 種類という計 11 のツアーを考えておりまして、黄色着色部につきましては今年度のツアーで実施したところ、ピンクの着色部につきましてはツアー以外ですけれども、11 月から申し込みの受け付けを再開して実施してきたところでございます。他の白抜きのところでございますけれども、右側に書いてございますけれども、年次を踏まえて実施可能なツアーから取り組んでいく予定という風にしてございます。

56 ページは来年度の実施内容でございます。下段になりますけれども、協議会の他にワーキングを作りまして、更なる地域支援の深堀、連携方策を検討してまいります。またですね、団体、個人の各種ツアー、先ほどご説明したツアーの内容の精査を行いまして、コロナの状況を踏まえて施行していきたいという風に考えております。

57 ページは今後の実施方針でございます。こちらはですね、図表がございまして、地域に価値を根付かせる動きということで、鶴田ダムや地域周辺の価値を高めるという検討を実施していきたいという風に考えております。以上が鶴田ダムでございます。

58 ページ目からは八ッ場ダムでございます。八ッ場ダムにつきましては昨年度完成しまして、今年度から地域主体となってインフラツーリズムを推進しておりまして、国交省としましては管理棟やダム堤体を活用した取り組みを実施しているというような状況でございます。

下のグラフでございます。6 月まではコロナの影響で開放しておりませんでしたが、7 月から今年の 2 月までの来訪者数の状況でございますが、下のグラフでございます。累計で約 20 万人が訪れるということでございます。冒頭資料 10 ページでございました、カウンタの取る場所が違いますが、昨年度は 30 万、今年はコロナ禍の状況でありましたが約 20 万、来訪者がいらっしまったということで、あと月最大ですね、11 月で 5 万人が来訪してございます。場所は違いますが、昨年度も最大で約 6 万ということでございますので、ピーク時は昨年度と同様の来訪者

が訪れたということが分かっております。

59 ページはツアーの実施状況でございます。上段の真ん中にごございますけども、水陸両用バス、こちらにつきましては7月から営業が初めて開始されたという状況でございます。左側にごございますけども、来年度は観光船も運行予定ということでございます。その他周辺地域です、ね、活動が活発になっておりまして、右側にありますアクティビティも実施されているような状況でございます。

こちら60 ページ目はですね、ハッ場ダムの堤体内の開放状況でございます。昨年12月にハッ場ダム見学ツアーとして、長野原町町民限定でございますが46名が参加して、ツアーを実施したところでございます。今回はですね、初回なので職員が案内をいたしました、今後は外部団体が案内、説明を実施していくという方向に向けて進めていく予定でございます。以上がハッ場ダムでございます。

続きまして61 ページ目からは、今年度モデル地区に選定した白鳥大橋でございます。こちら今年度からモデル地区に選定した箇所でございますので、現地協議会の状況もご説明したいと考えております。こちらにつきましては、室蘭推進観光連絡会が新たに現地協議会として運用しまして、検討を実施してきたところでございます。

62 ページでございます。こちらはですね、全体の概要でございます。室蘭はですね、鉄のまちであるということもございまして、プロジェクトタイトルにごございますけども、インフラツーリズムで室蘭の歴史、産業、文化を発信するというようなことをタイトルに掲げてございます。

周辺観光資源と連携した多様なツアーを実施していくということでございまして、事業の柱の四番目にごございますけども、民間の船舶の活用も考えているというような状況でございます。

プロジェクトの目標にごございますけども、鉄のまち室蘭を巡るコースや、あとは夜景が有名な室蘭港と合わせたコースの設定や、あとは周辺観光地、登別温泉等と連携したコースの検討を実施していくという予定でございます。

63 ページは白鳥大橋のインフラツーリズムの深度化ということでございます。具体のツアーについては下のツアー設定案にごございますけども、1 つは鉄のまち室蘭ということで日本遺産、炭鉄港のツアー。2 つ目はフォトジェニックな景観、景勝地を巡る室蘭港内のクルーズツアー。あとは3 つ目、主塔貸し切りツアーや、4 つ目、階段で登頂するツアー等を検討するというところでございます。

64 ページは運営スキームでございます。現地協議会の室蘭観光推進連絡会の下に実務担当で組織しますワーキングとしまして、仮称でございますけども室蘭観光推進連絡会、ワーキ

ンググループをですね、設置しておりましたして検討を進めていくというふうに考えてございます。

65 ページ目でございますけれども、現地協議会の意見を踏まえた取り組みでございます。下段でございますけれども、白鳥大橋の多様な活用メニューの検討、あとは周辺地域との連携、3つ目ですけれども、担い手となる地域の実施主体を検討していくというふうに考えてございます。

66 ページ目ですが、先週 19 日に今年度 2 回目の協議会が開催されまして、商品造成等について議論を深めたところでございます。

67 ページ目でございますけれども、柱がでございます。白鳥大橋の主塔登頂クルーズ、これをですね、柱としまして 4 つのツアーを設定しております。具体にはですね、次のページからご説明させていただきます。

次のページが 68 ページでございますけれども、いわばこれはテーマ別にツアーを設定しております。1 つ目のテーマは室蘭の鉄をテーマに右下でございます、白鳥大橋のケーブル基礎のアンカレイジの見学等、その他周辺の観光施設を組み合わせたツアーを検討してございます。

2 つ目は、絶景をテーマにということで、右側に写真がございますけれども、地球岬等をクルーズ船で巡るツアー、室蘭八景を始めとしまして、100 メートル級の絶壁が続きますので、こういうところを組み合わせたツアーを考えております。

3 つ目は、テーマとしてカメラ旅ということで、撮りフェスというイベントがございまして、それとの連携を考えてございます。こちらはですね、右側の写真にもございますけれども、クルーズ船でイルカ、クジラウォッチング、あとはもちろん主塔の登頂を絡めながらこのようなツアーを実施したいというように考えてございます。

4 つ目でございますけれども、こちらはテーマは自然ということで、北海道の大自然満喫ツアーということで、ジオパークや半島等を巡るツアー、こちらを考えておまして、これら 4 つのツアーを先週の協議会で提示させていただいて、今後実施に向けて検討していくということで考えております。

続きまして 72 ページ目でございますけれども、白鳥大橋につきましてもマニュアルを作成しております。左側にガイドマニュアルの構成を書いてございますけれども、予備知識、ガイド、参考資料として、白鳥大橋の構造についても詳しく作成しているというような状況でございます。こちらもお手元にお配りしております。かなり厚くなっておりますが、地域、あとは国交省と連携してガイドマニュアルを作成したという状況でございます。

73 ページ目は、協議会の要旨を踏まえた今後の取り組みでございます。下段でございます

けども、主塔登頂クルーズを軸としまして、多様な見学、活用方法を検討、あとは、ガイドマニュアルの深度化、あとは組み合わせる地域資源の調査、検討。モニターツアーの内容も引き続き検討していくというところでございます。

74 ページ目は来年度の実施内容でございます。下段になりますけども、多様な活用方策の検討の他、ツアー実施の体制、ストーリー等の検討も実施していくという予定でございます。

75 ページ目は事業の実施方針、スケジュールでございます。検討を進めまして、来年度の6月頃に募集を開始して、夏頃にモニターツアーを実施することとしまして、そのあと収支計画や広報について検討する予定でございます。

続きまして76 ページ目、こちらはですね、今年度モデル地区に新たに選定しました日下川新規放水路でございます。日高村観光協会等で組織します現地協議会を新たに立ち上げまして、検討を実施してまいりました。

77 ページは全体概要でございます。こちらはですね、プロジェクトタイトルは日高村観光資源の活性化ということでございます。プロジェクト概要にも記載してございますけども、こちらは今まだ工事中でございます。工事段階から管理段階への移行モデルとして検討していきたいように考えております。工事段階であります日本最大級の放水路の活用方策や、インフラ施設と水害との関わりのストーリーを検討していくという予定でございます。

78 ページ、インフラツーリズムの深度化ということで、ツアー設定のアイデア段階でございますけども、4つ記載してございます。まず1つ目、先ほど言ったようにまだ工事中、日本最大級のトンネルということで日下川新規放水路の工事現場の探検。2つ目はインフラ施設の役割や作られた背景を学ぶ。3つ目は日高村の観光資源と連携したプログラム。4つ目はトンネルレストランツアー。トンネルはですね、夏涼しく冬は暖かいということで、レストランやアクティビティを検討していきたいように考えております。

運営スキームでございます。こちらでも現地協議会の下に作業部会を設置しまして、特に活用方法、これを検討していくというような状況でございます。

80 ページ目、現地協議会での意見を踏まえた今後の取り組みでございます。1つ目はですね、日下川新規放水路の特徴を生かしたコンテンツの検討。2つ目は組み合わせる地域資源の調査、検討。ファミツアーの内容も引き続き検討していくこととしております。

81 ページ目は来年度、令和3年度の実施内容でございます。活用方法の検討を進めるほかに、放水路を中心としましたストーリーの検討、あとは地域の魅力や課題を抽出するためのファミツアーを実施する予定でございます。

82 ページでございます。こちらはですね、事業実施方針でございます。前日でもご説明いたしましたが、作業部会、今年度は2回開催しているところでございます、協議会と連携しながら自走化に向けて活用方策を検討して進めていきたいという風に考えております。

続きまして83ページの全体を通した4ポツとして、令和2年度の成果と今後の実施方針案でございます。

84 ページの図でございますけれども、これは前回の懇談会で提示したステップ図でございます。手引きにも記載してございますけれども、周辺観光資源と連携した地域活性化に向けまして、下に下段がございますけれども、深度化、コンテンツ検討、運営体制構築、インフラツーリズムの実践というのをですね、このような模式図に表したものでございます。

85 ページ目は各モデル地区の進捗状況でございます。特に、昨年度選定したモデル地区では二重丸◎の実施、または実施準備段階、または丸○の方針検討段階に入っているという状況でございます。右側2つがですね、今年度選定したモデル地区でございますけれども、かなり早いスピードで検討が進んでいるということで方針検討段階に入っておりまして、それぞれ7地区、八ッ場ダムは既に自走化してございますけれども、他の地区につきましてはそれぞれの地区で検討が進んでいるというような状況でございます。

68 ページ目は全体の実施方針案でございます。今年度ですね、ツアーが実施できなかった箇所につきましては、来年度ツアーを実施する予定でございます。モニターツアー等を終えた地域につきましては、ターゲット別の幅広い地域の観光資源と連携した商品の販売、実施を行いまして、自走化を目指すこととしております。あわせて情報発信も検討することとしてございます。

87 ページ目、こちらは3年目のフローでございます。一昨年度実施したのが3年目になりますが、昨年度は2年目でございますけれども、このようなスケジュールに乗っていければというような考えでございます。こちらはですね、自走化に向けて運営体制を検討して、もちろんプロモーションを実施しながら本格運用を開始するという予定でございます。

88 ページ目でございます。こちらは手引きの改定でございます。前にもご説明しておりますけれども、社会実験の取り組みを行いまして、来年度手引きを更新予定でございます。インフラのタイプに応じた目指すべき方向や、自走化に向けた運営体制の構築について拡充する予定でございます。

89 ページ目でございます。こちらはですね、来年度の事業スケジュールでございます。自走化に向けてツアーの検討や実施を行っていくという状況でございます。なおですね、モニター

ツアーは点々で予定と書いておりますけども、これらの時期は現地の状況、コロナの状況等を踏まえて実施しながら、自走化に向けた検討を進めていく予定でございます。なお八ッ場ダムにつきましては、地域において自走が進んでいるところでございます。黄色で懇談会の予定が書いてございます。9月に書いておりますが、大体モニターツアーは夏頃に実施するというような状況を踏まえまして、これらの進捗状況、実施状況を踏まえて夏頃に次回の懇談会を開催したいと考えておまして、それとともに先頃ご説明させていただきました手引きの骨子を来年度夏頃に提示させていただきたいというふうに考えておまして、年度末には年度の成果報告と手引きを改定したいという風に考えております。

説明長くなりましたが、以上でございます。

すみません、47ページ目に資料の訂正がございます。47ページ目の一番上のポツの一つ目でございますが、2行目でございますけども、マーケットサウンディング調査を踏まえて本四高速において事業者募集を実施というふうに書いてございますけども、失礼しました、これは本四高速様ではなく協議会で事業公募を実施するということでございますので、こちらについては訂正をさせていただきたいと思っております。

各モデル地区の実施状況と来年度の実施方針を含めて連続でご説明させていただきました。以上でございます。よろしくお願いいたします。

【清水座長】 ありがとうございます。何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。とくに、各地で関わっておられる委員の方々、もし事務局の説明以外でお気づきの点があれば、補足等をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【篠原委員】 それではよろしいでしょうか、篠原でございます。

【清水座長】 はい、お願いします。

【篠原委員】 今事務局にご案内いただいたのですけれど、非常にきれいにまとめているのは良いのですが、ちょっと本質を違った部分でまとめすぎではないかというようなことをちょっと懸念いたします。

ポイントになる部分はいくつかあるのですが、まずですね、先ほどの鶴田のご案内のページ、ちょっとお出しいただけますか。団体と個人、仕分けをしたツアーのメニューがあったと思っておりますけども、一番気を付けていかななくてはならないのは、五十嵐調整官には、あるいはまた事務局には何度かお話をしているお話を皆さんで共有していこうと思うのですけれど、いずれにしてもこの誰にどのように売るのかというような出口の想定をしっかりと立てていかないといけないと思うんですね。その中で、団体向けと個人と旅行の形態が分けられますので、こうした

セグメントをですね、まずは計画の段階からどのエリアについてもですね、できるかできないかというのは後の話として、想定される可能性があるところをこのようにセグメントをきちっとしていくことが成功の秘密だと思うんですね。

次のページも良いですか。このページで出ていたのは、教育旅行と身障者向けのタイアップツアーみたいなもの、それから旅行会社をベースにしたこうした販売のお話とかですね。あとは八ッ場ダム、そして立野ダム、鶴田ダムでも実はこういう風な提案をしているわけですが、具体的な土木技術者向けの専門ツアー、そしてまたマニアの専門ツアー、そして地域の取り組みをベースにした動きと一緒に合わせてですね、ダムのトンネルを利用しました焼酎の熟成をするというようなこうしたようなもの、こういった風にいくつも分けられていくわけです。

ちょっと次もよろしいですか。個人向けの部分というのは、今までも受けていただいていたわけなのですが、この辺の販売の仕方というものと、それから地域の事業者さんをいかに付けて、個人の方がダムを見学してすぐに帰ってしまわないように、滞在時間をどうやって他の資源とつなげながら伸ばせていけるのか。それが結果、宿泊にもつながるだろう。こんなふう思うわけであります。

こうしたセグメントをどのエリアでもしっかり行わないまま、出口がないモニターツアーをよく作るわけですよ。そしてその部分をお招きして、さっき評価が高いというお話があったわけですが、これはイベントとしてダムの事務所もそうですし、地域の方々もそこのお客様に対して一生懸命お世話をしますから、バツが付く話にはならないんですよ。必ず「良い」という話になるのですが、いちばんこのインフラツーリズムでやらなきゃならないのは、今申し上げてきたようなプログラム、これをしっかりと作り上げる事ですね。これが作り上げられれば、旅行会社がその素材を加工しながらですね、発着地を上手くつなげていただけるようになりますので、その仕分けがぐちゃぐちゃなまま、何かモニターツアーをやってしまうというのがこのシリーズの結末と言うのですか、その評価が委員会に報告されて良しとされてはいけないので、そこをまずはしっかりと抑えたいなというところがございます。

これがあらましのちょっとお話なのですが、清水先生、続けて私が関わったところを補足させていただいてよろしいですか。

【清水座長】 はい、お願いします。

【篠原委員】 まずですね、先週末金曜日に現地に入ってまいりましたが、室蘭の白鳥大橋でございます。ちょっとお出しいただいてよろしいでしょうか。はい、組織図をちょっと出していただいていいですか。はい、ここで結構です。

実は8月に重点としての指定をさせていただいて、1年前に1回私が参りましたらですね、市のどうも熱意を感じなかったのですけども、採択をいたしまして、初回入りしたのは認定後すぐでございました。市長とですね、今回ぐっと、始めに握りをいたしまして、その中でですね、室蘭市自体が観光として、今までは鉄のまちでしたので、市長の思いとしてはですね、しっかりこのインフラツーリズムを核に立て直したいのだというところで握りができました。その後はですね、北海道開発局、ここの皆さんも非常に今回の事業につきましては真剣に考えていただいている、札幌の本局もそうですし、地元の室蘭開建、この辺の皆さんのご努力でですね、できることは何でも自分のことのためにやるという大きな合意が取れました。そこで、この室蘭観光推進連絡会、元々あった協議会なのですけども、ここと北海道開発局、がっちり握っていただきましてですね、地域の宿泊事業者の皆さん、そしてガイド協会、それからあとは飲食店組合とかですね、更なるこうした拡大の中で、今後こうしたものが具体的に動き出すという、こういうような話が一気にできてきました。ちょうど金曜日の日曜日に議会がありましてですね、市長の答弁の中で、これを5月から具体的にスタートするということが決定しまして、北海道開発局と推進協議会の中では、施設管理者の契約、これを4月の中旬には行うことになりましてですね、具体的にはツアー1回が5,000円から15,000円くらいの設定の中で、船でアプローチをして塔頂させていくということ。そしてその中には付加価値を付けたお食事のパッケージですとかですね、市民にお金が回るというような動きがですね、一気に加速して事業化がもう見えました。多分これは全部の事業の中であつという間にこれが追い抜いてしまったかなということで、これは大成功のやはり事例としてご報告をさせていただきたいと思います。

それから今度は来島行っていただいて良いでしょうか。組織図のところがあれば。はい、ありがとうございます。なかなか当初こちらも今治市の方がなかなかこう本気になっていただけなかったのですが、市長が変わり、そして観光のセクションのトップも変わったりいたしましてですね、積極的に動き出していただきました。四国地整のご苦勞と、それから本四高速、何とか明石海峡大橋に続いてこのエリアで何とか具現化したいということで、安全管理面の要員をですね、愛媛県の道路管理者を経験した方々に入ってください、そしてまた観潮船、かなり潮がきついでありますので、この事業者の運営の母体のご意見等を入れながら、具体的な事業イメージは取れております。先ほど申し上げたようなセグメント別のツアー内容もできておりますので、あとはやはり先ほどと同じように事業者の公募を行っていくという、この段階に来ております。

しかし、ちょっと1年間ですね、間が空いてしまいまして、何かちょっと興ざめしてきている部分を感じられるので、この間webで会議をさせていただきました。1週間ほど前ですが。一気に

整理すべきことはいたしましたので、春、そうですねもう5月にはですね、公募が始まって、6月ぐらいには選定が終わって、準備期間、PR 期間を行って、秋から実質有料で商品化ができる。何とか目鼻が見えてきていると。こういうご報告でございます。

あと鶴田ダムももう1回ちょっと出していただいて良いですか。こちらなのですが、かなり昨年はぐっと勢いよく観光メニューも整備していったのですが、いろいろこう人事異動等もあり、そしてまたコロナの関係で、一年間ちょっと止まってしまっていて、これも何か気が抜けてしまっているような感が否めないのですが、これも先般、web ではございましたけれども、課題をきちっと整理をいたしまして、いち早くですね、観光物産協会、これはDMO のですね、今はもう申請ができておりまして、旅行業の方も持っておりますから、ここをベースにですね、地域の温泉地とつなげながらどう売っていくかという具体的な課題整理までは行っているということですね。これも地域としては非常にダムの事務所とは良い関係でございますから、協力の体制はばっちり取れているので、あとは指南の仕方で、具体的に動き出せるかなという風に思っております。

直接的に絡ませていただいたのは3件なのですが、ハッ場ダムにつきましてもちょっとご報告をさせていただきたいと思います。ハッ場も今の体制の前に、完成前にいろいろ関わらせていただいていたわけですけども、年に2回くらいですね、ダムの反対派だった皆さんから今でも呼びいただきまして、2月に「最新の現地を見せたいんだ」ということと呼びをされました。冒頭に佐藤課長からご報告があったようにですね、非常に観光施設としてはそれぞれ国のお金が入ってですね、道の駅とか、そして周辺の各エリアに観光施設が充実して動き出しているんですけども、いちばんちょっともったいないというのは、それぞれのエリアが一生懸命動き出しているんですけども、民力で動き出したものの、何かこう全体の統括ができないというか、ランドデザインができていないので、これはまさに国のやる仕事ではなく、国のやる仕事というか総整局の仕事でなくて、これは観光庁の方ですね、富樫課長のところと一緒にやる話になるのですけども、それぞれの事業者がバラバラ動いていて、今はお客様がまだ珍しいので来ていますけども、多分私の想定ですと、3年ほど経つとひと熱冷めてきますと、それぞれの稼働しているものというのが、集客が多分できなくなるだろうって風に思っております。すべて情報が一元化されたPR ができていないので、そこを今度は民力としてですね、回していくことが重要なのですが、そこをですね、今度観光庁の事業とも繋げながらハッ場は面倒を見てあげないといけないかという風に思っております。

先ほど佐藤課長のお話、実績の数字があったんですけど、多分あれダックツアーのお話だと思うのですけども、やはりあの部分の人気はもちろんなんですけど、あれをもう少しうまくちゃ

んと地域の資源と連携させながら繋げていけることを具体的にこの間提案してまいったということです。後程また、富樫課長とか佐藤課長とですね、作戦を立てていければ、ハッ場は大きくまた伸びるかなという感触でございました。

すみません、長くなったんですけども、ちょっと携わったところを皆さんと共有をさせていただきました。ありがとうございます。

【清水座長】 はい、ありがとうございます。何か事務局の方でリアクションはありますか。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい、先生からはいつもご指導賜って、もちろんブランドデザイン、担当の地域のプログラム、セグメントをやっていかなければいけないという話はですね、先生からいつもご指導をいただいているところでございます。地域の方もですね、その辺はご認識していただいているところはあろうかと思っておりますので、これを踏まえてですね、また来年度ですね、検討なり事業を進めていきたいという風に思っております。

【清水座長】 はい、他いかがでしょうか。河野委員から何かございますか。

【河野委員】 補足をつけましょうか。

【清水座長】 はい。

【河野委員】 では私が携わったところの補足だけ、資料にない部分だけ少しお話をしましょう。その前に、今篠原先生から説明がある前に資料を読んでいてさすがだなと思ったのは、やっぱり鶴田ですね。鶴田の実際にそれがターゲットに受けて、どれだけ売れるかというのはまだ検証がこれからというところではありますが、セグメンテーションが大事という話は、多分地域は言葉としては理解しているのですけども、セグメンテーションというものをどこまで具体化をしなくてはいけないのかということがおそらく分かってない、というのが私の実感です。それはこのインフラツーリズムに関わらず、地域に入るときにいつものことではあるのですけれども、どういう人がどういう時間を過ごしに来るのかというところまでセグメントをちゃんと具体化していくところを、私が携わっている地域も含めですけど、もう少しちゃんと掘っていかないと、モニターアアが仰る通りターゲットを絞り切れないでふわっとしたものになるだろうなという危惧は私も感じています。

携わっているのが天ヶ瀬と日下川なのですけれども、天ヶ瀬が正直に言うと本当に半年くらい巻き戻ったなという感じではあります。大きな理由は、地域側の問題として昨年度は、元々お茶の京都DMOが販売やプロモーションを担当するという予定で最初スタートをして、それで調整を始めていたものの、やっぱりそれでは回らないということで地域の協議の中で、観光協会が旅行業の資格をこの段で取り、そしてこれから始めるというところになったので、その分の

軌道修正に時間がかかったというところがいちばん大きなところですよ。

逆に言うと、観光協会が旅行業を取れて、やる気になってくれているところもあるので、ここからどれだけ本気になってツアーを作っていけるかというところではあります。取り組みを始めただけで、経験が少ないというのがいちばん大きなリスクではあります。

協議会のメンバーの中で京阪さんなどの旅行業の知見を持った人が仲間にいるというところではありますが、観光協会の方がその力をどこまで、言い方は悪いですが上手く図々しくその力を借りていけるかどうかというところが、来年のスピードアップですとか、モニターツアーがちゃんとした形のものになれるかというところの鍵になってくるので、ここから夏までがおそらく天ヶ瀬のいちばんの正念場ではなからうかという風に思っています。

全体的にかなり広域で、協議会を構成するメンバーが多く、遠いところや、広い地区を対象として活動する方々が入っていることも影響しているのか、協議会の中で、本音で具体的な意見をぶつけ合いながら進めていくというような形にならないので、最終的に観光協会におんぶに抱っこになってしまわないかというところがリスクです。ここはちょっとウォッチをして、場合によっては積極的なサポートをしていかないと、観光協会のマンパワーでできる範囲のことしかできないというような着地になるリスクが大きい地域であるという風には感じております。

もう1つ、日下川についてです。工事中という状況のため、どこを見せられるかというところも含めての調整なので、これは1からのスタートというところで時間が押しているのはありますが、その中で順調に議論は進んでいるであろうというように感じています。

工事中の放水路以外に近所に旧放水路があるので、新規放水路の稼働前においても、既に稼働している旧放水路の見学を加え、これのもっとすごいものが出来るんだよということがセットで見られます。これに加えて、周りの水辺環境などもあわせて伝えていくことができるだろう、ということで核として見せたいものまでは決まったという段階です。その周りの地域資源に関して何を売るか、何と組み合わせるかという検討はまだ今後の精査が必要です。周りの地域資源が少なく、近所に連携先としてメインとなる大きな主要観光地がないので、何かのついでに來てもらうことを目的として、周辺にいる人をここに連れて來ようという誘客戦略が結構難しい土地柄です。スモールビジネスとしてどういう風に設計するかというところを具体化していくというところについて、今ちょうどルート作っているこのモニターツアーを商品にするためには、検証段階とその後、旅行会社や消費者だけではなくて、このツアーでビジネスをする地域側の事業者などの意見をどう取り入れていって、実現性の高い収益化のためのセグメンテーションをどう考えるかというところが重要です。おそらく地域内議論だけではこのような議論がすぐには出て來

ないと思いますので、プロの話はどうやって入れていくか、現場をどれだけ見せて、モニターツアーを一般消費者以外の人にやらせてみてどういう風に思ってもらえるかとか、そのあたりの絞り込みというのが次の段で必要になってくるだろうという状況です。私からは以上です。

【清水座長】 はい、ありがとうございました。ではちょっと私も1つ現場があるので、先にお話をさせていただきます。

私は鳴子ダムを面倒見させていただいております、こちらの方は、ツアーのバリエーションとか規模というのは大きくはないのですが、とにかくある一つの仮説に基づいて着実に進めているというのが現状だと思います。

この鳴子ダム、私の理解ですけれども、単体として人を呼ぶためには立地とか、周辺の後背人口の関係も含めて厳しいと思っております、数はそんなに稼げないかもしれないけれども、近くに鳴子温泉峡という宿泊拠点もありますし、少し下流に大崎耕土という世界農業遺産のすごい資源、ただ、資源としては優れているもの見てくれはなかなか難しいという議論はあるのですけれども、そういうものを上手く絡めた地域連携を先鋭的にできないかということで、現地をお願いをしていろいろ考えていただいているのが現状です。

しかも、本来はインバウンド向けに検討していたので、今は日本に在住の外国人の方が、それから主として宮城県民ですかね、この方々によって検証するしかないのですけれども、将来的にインバウンドを見据えたときに、とくに欧米系が好きそうなコンテンツがてんこ盛りだと思うのですよね。そこで、数年後を見据えて、今のうちからそういう体制を作っておいて欲しいということ動いているのが現状です。

私自身が考えている問題意識は、やはりダムのスタッフの方がどれほど関わるのか、と。今はダムの方がものすごく熱意を持ってやっけていただいているのですが、やはり人事異動で人が変わったときに、熱意がどのくらい変わってくるのかが、いちばんのリスク要因と思っております、やはりこの公社ですかね。DMO ではないのですよ、まだ確か。公社がこういうことに対してどれほどキャパシティを持っているかが、経験と人的リソースも含めてもう少し工面があるかなと感じています。そういった意味で言うと、例えばどの旅行会社が組むかとかですね、もう少し地域外のリソースをどうやって上手く組み込んでいくかが、おそらく今後の成功の鍵になるかなと思っておりますということなので、私自身は何を自走というかをなかなかクリアに言えないのですが、ツアーとして成立するということが非常に重要だと思います。自走の中で特にインフラツーリズム特有の課題としては管理者の方がどこまで関わるのか、さほどの土日の問題も含めてですが、こういうところが、このインフラツーリズムの中で主として検証されなければいけない項目の

ような気がしています。

あとは、事業者と管理者の関係性ですかね、委託して事業者がやったときの管理者との関係性とか、どういう業務分担をするのか、今までいろんなインフラツーリズムの試行でトライされていると思うのですが、そういうところが、来年度また手引きを改定するという事なので、手引きを見てインフラツーリズムを始めたいときに参考になるのではないかと思います。ですから、今回ある種モニター的に実験的にこういう事業をやっているのだとすれば、単なるツアー化というところだけではなくて、これらのことを細かく見ていく必要があるという感触です。私としては以上です。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい、先生がおっしゃる通り、なかなか鳴子だと鳴子温泉があるものの、集客がやはり難しいということと、周辺に著名な観光地があまりないということが確かにございます。

その中で今回、団体バスツアーと個人プランをやって、個人だと本当に集客する人が本当に限られていてですね、落ちるお金が少ないとは思いますが、地元としましてはそれを観光公社の1つの商品として年間を通してやっていこうというような方向性で動いているということは、1つの成果にはなっているのかなという風には思っております。今先生がおっしゃったようないろいろな項目を踏まえて、また来年度検証していきたいと思えます。以上です。

【清水座長】 はい、お願いします。では阿部委員。

【阿部委員】 私は現場を持っておりませんので、今回モデル地区のご報告を拝見した上での感想になりますが、ずいぶん様々なコンテンツを検討されていて、それから周辺地域との連携、周辺資源との連携というのも徐々に具体化してきているということを実感しました。

その中で、前回の懇談会でもご議論あったと思いますが、このモデル地区の取り組みから何を具体的に読み取っていくかというところがポイントかなと思っていて、それとこのインフラツーリズムの懇談会の成果と言うか、モデル地区の成果を踏まえた落としどころと言うのですかね、継続的にこのモデル地区を増やしていくのか、あるいはある段階でこのモデル地区の取り組みを終えて、地域ですとか各施設に任せていくのかという辺りと連動してくると思えますが、今回様々な地区のご報告を聞いて、1つはインフラを使ったからできたことですか、あとはインフラだからこそ課題になっていることというのが見えてくると、他のツーリズムとは違って、インフラツーリズムの特性・特徴が見えてきて、発信力が高まるのではないかと思います。

その際に、まだ少し先の話かと思いますが、インフラを使ったことによる効果ですとか、地域の課題のどの辺りを上手く解決できたのかという辺りの整理があると、非常に分かりやすく「イン

フラを使ってみようかな」という気にもなると思いますし、一方で先ほど管理者の方の土日の勤務のお話がありましたけれども、インフラを使う上での障壁となっていることをどう地域の連携の中で緩和していけるのか、あるいは行政として何か規制を緩和していくような取り組みができるのかといった辺りも整理がつくと、このインフラツーリズムの特徴が見えてくるのではないかと思います。

【清水座長】 はい、ありがとうございました。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい。先生からお話がありましたモデル地区を実施してこれから何を読み取るのか、まさしくそれを検討して手引きに反映して行って、横展開というか、全国に展開したいと考えているところでございます。

なお、モデル地区を今後増やすのかということにつきましては、今は 7 地区ございますが、やみくもに数を増やすということではないかと思っておりますので、やはり今実施しているモデル地区ですね、卒業に向けて取り組んでいく方向なのかなという風に考えているところでございます。

それから先生がおっしゃったように、管理者の関わり、他の先生、委員からも話しがございました。やはり土日対応、ガイドの確保というのが各地域で大きな課題になっておりますので、それは地域に認識していただいております。これをどうクリアしていくのかということかと思っておりますので、それは引き続き検討していくところかという風に思っております。以上でございます。

【篠原委員】 篠原でございます。ちょっと補足良いですか。

【清水座長】 はい、お願いします。

【篠原委員】 さっき私あの地域振興と言いましようか、観光面の重点的なお話に偏ってしまったので、ちょっとプラスしておかなきゃならないのは、このインフラツーリズムの意義は、原点を考えましたら、激甚化してきておりますいろいろ災害でございますが、これをやはり国民にです、しっかりダムのはやはり効力、そしてインフラ投資についてもしっかりと理解を求めていくと。これは観光という切り口で広げていくべきだよね、というこれがやっぱりあったと思うんですね。

私の担当していく地域もちろんなのですが、やはりその施設の重要性とか、あるいは日本の建設技術の先進性みたいなものをしっかりとその中に入れて、目的はしっかりと守るのだと。こういうことはきちりと抑えているところでございます。

それからこれも事務局に確認なのですが、先ほどのご方針で、今は 7 つが手一杯でもありますが、新たなものは認めないというか、公式認定はしないというお話もあったのですが、先ほどの文面の中に頑張れるところは応援していくという文言があったと思うのですが、これは

生きていると思って良いですね。大丈夫ですね。

1 つご相談をいただいている案件がございまして、震災の、東北震災 10 年経ちましてですね、震災遺構をしっかりと活用したいということで、元次官の徳山さんが今また頑張ろうということで動き出しておられまして、震災遺構をつなぐ震災ロードという仕組みがあるのですね。この部分を福島県で言いましたらホープツーリズムのような、平和をベースにしたまちづくりがずいぶん進んでいるのですが、この辺がですね、全然連動できてないのですよ。ですからこの辺も観光地域振興課のマターの部分のお話と、旧建の整備局の皆さんも一生懸命動き出そうとしているのですけれども、なかなかこう連携が取れていないものですから、何とか総政局の大きな括りに入れていただいでですね、全体のデザインをしてあげれば、ぐっと震災遺構の伝承がうまくつながるように思うのですが。この辺についても事務局のご意見を伺えればと思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 まず先生が冒頭におっしゃっていただきました、もちろんインフラツーリズムは人を呼んで地域活性化というのが目的なのですが、それとももちろん社会資本の整備の必要性、これはもう 1 つのインフラツーリズムの大きな目的だだと思いますので、今実施しているツアーの中にもですね、もちろんダムであれば水との関り、災害との関り等についてのストーリーやツアーを設定しておりますので、それは説明するのは重要なものという風に考えてございます。

他の地域の支援というのは生きていくことにつましましては、もちろん生きていくということで、先ほどご説明させていただいたように地方整備局の方からいろいろご意見、要望等があればそれについては対応していきたいというふうに考えております。

最後に東北の震災の大きな括りでやられるかどうかというものについては、ちょっとこの場でご回答はできない状況ではございます。例えば東北の方からいろいろそういう話とか何かあれば、話を聞いていくというような段階かと思っております。以上でございます。

【清水座長】 はい。金銭的な支援をするという話と、それから知見としての支援と言うのですかね、をするというのは両方あって、前者がなかなか予算との関係で難しいときに、後者の方はどうするかというのは、やはりきちんと考えておくべきことかな、と。そういった意味で言うと、手引きを作るときに地域の DMO とか観光協会の方が見て参考になる部分と、それから管理者の方が興味を持って地域の観光のステークホルダーと組んでやりたいと思ったときに、どういう体制を組めば良いのか、何がポイントになるのか、そういう聞き方ができれば次の手引きはすごく有効な気がするのですね。多分そういうことをお考えいただければ良いと今話を聞いていて思いました。

【篠原委員】 清水先生よろしいですか。その通りだと思うんですよ。佐藤課長がいつもおっしゃるのはですね、お金があると、結果切れたときに終わっちゃうよね、というお話をいつもするんですけども、後者の方のお金でなくてグランドデザインをしっかりと知見を持ってつなげていく、そこにあのさっきの八ッ場の話じゃないんですけれども、どうやってやっぱり地元の方々がですね、本当にこれを真剣に考えていけるかという仕組みを作ってあげることですよ。この辺の音頭を取っていける体制がないものですから、東北に関しましてですね、お金でないような支援を皆でしてあげたら大切な震災の記憶というのがつながっていくなという風に感じている。こういう趣旨でございます。

【公共事業企画調整課長】 先生、いろいろおっしゃる通りだと思います。前回の会議で僕は冒頭に言ったと思うのですが、お金の切れ目は切れ目になりますし、正直言うと先ほど清水座長の方からもあったように、人の話もですね、人の縁も最初に切っておいた方が実は長続きする。スーパーマンがいるときにガーッと動くのだけれど、スーパーマンがいなくなっちゃったときに止まってしまうというのが大体多い事例で、そういう意味でいうとスーパーマンがいなくても回るように縁は切っておいた方が本当は長続きするということもあると思うので、そういう目でものをしていかなければいけないかなと思います。

そういうときに東北の震災遺構をどうするかというのは1つ大きな課題かなと思いますし、おっしゃる通りお金を付けて上手くいくというものでは多分ないのだろうと思うのですが、人のことをやりすぎると、今度その人が転職したときに回らなくなるということもあるので、そこをどういう風に制度化していくかというのは1つ大きなテーマかなと思います。

そういう意味で、今これモデル地区、今回も先生方に非常に熱心にやっていただきまして、各地区大分こうグレードアップしたなというのが正直な感想でして、事務局も含めていろいろな方、なさっていた方々には非常に感謝申し上げたいと思います。

ただ、このモデル地区もそろそろ、多分本省の役割というのはモデル地区を作ってそのモデル地区でノウハウをものにして、周辺に広めて、次は正直言うよろず相談所みたいな形で分け隔てなく相談に乗ってあげるといふスタイルに、それが多分正常なスタイルだと思うので。できたらこのモデル地区、今7つありますけども、そろそろ卒業もしていただきながら、逆に言うと相談来るものを拒まずみたいところで、そこには適宜人的リソースも充てるし、場合によっては事業費的なリソースも充てるみたいない体制になっていくというのが、多分次のステップだと思っています。

そういう意味で、震災遺構みたいなものは多分大きい概念になりますので、どこがどうという

よりはまさにそういう対応をしていくのだろうなという風に思っていますので。そこはまたいろいろと気軽に相談できるように我々がなっていくというところかなと思いますので、そういう風にできたらなというように思います。

あとはセグメントの話だとか、インフラツーリズムそのものの原点みたいなところですね、そこはしっかりと見失わずにやっていきたいなという風に思っております。

【清水座長】 富樫課長は何かおありですか。

【観光庁観光地域振興課長】 今話題に出ました伝承ロードのお話ですけれど、実は立ち上げの時から私関わっておりまして、今は 6 つくらいのルートができあがって。しかしやはりあのルートだけを見て歩くということになると非常にやっぱり気分が重くなるし、なかなかちょっと観光という面からいくとコースとしてはこれだけでは辛い。やはりもっと他の観光資源と連携した 1 つの、また別のですね、商品化というものをこれから考えていかないといけないなということで、今東北の DMO と連携をしてですね、そういったその沿岸部だけではない、内陸とももう少しこう連携した、広域的なそういった旅行商品なんかの開発をしましょう、ということで今一緒にやっているというところであります。非常にこれは重要な遺構だという風に思っていますので、我々も大事にこれから一緒にやっていければという風に思っております。

【清水座長】 はい、ありがとうございます。他の観点で何かありましたらお願いしますが、大体よろしいですか。

【観光・地域づくり事業調整官】 すみません、事務局ですけど、皆さんにお配りしている資料、1 つご説明をちょっと忘れておりました。

篠原委員からお話がありました白鳥大橋、来年の 5 月からですね、ツアーを実施するというので、市議会で表明をしたという記事をお手元にお配りしておりましたが、失礼しました。ご紹介が遅れました。申し訳ございません。河野委員申し訳ございません。ちょっと送るのが遅れておりました。後から送らせていただきます。

【清水座長】 はい、分かりました。ありがとうございます。大体よろしいでしょうか。

本日、いろいろな観点、ご意見を伺っていると思います。集約すると、ツーリズムに関わる部分と、それからインフラに関わる部分ですかね。それぞれで大きい注意点を各委員からいただいたと思います。事務局の方で整理をいただいて、最終的には座長として私の方で確認をさせていただいて、確定次第公表するという形にしたいと思いますが、それでよろしいでしょうかね。はい、ではお任せいただいたということでよろしく申し上げます。

それでは本日の議事はこれで終了しましたので、進行を事務局の方にお返しをいたします

【観光・地域づくり事業調整官】 はい、清水座長、円滑な議事の進行をいただきありがとうございました。また委員の皆様には長時間にわたりご議論、ご意見等、大変ありがとうございました。

本日の議事録につきましては、後日事務局よりですね、各委員へ確認させていただきまして、その後ホームページで掲載させていただく予定でございます。よろしくお願いいたします。

では、以上をもちまして第7回インフラツーリズム有識者懇談会を閉会させていただきます。本日は活発なご議論、誠にありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

以上